

放課後等デイサービスガイドラインに基づく自己評価（2018年度）

放課後等デイサービスの支援の質の向上を図るため、「放課後等デイサービスガイドライン」に基づき2018年12月に実施した自己評価の結果を下記の通り公表します。

（アンケート回収率：保護者 82.6%、スタッフ 100%）

1. 保護者アンケートの結果

	保護者アンケートからの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	活動環境、職員配置・専門性について、一定の評価をいただきました。	基準上配置すべき人員に加えて指導員を配置することで対応していますが、活動・支援内容によっては男性スタッフ数がより必要な場合もあり、今後の課題としていきたいと思ひます。
適切な支援の提供	どの項目も「はい」が95%を超えており、特に「活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか」の項目で「はい」が100%という高い評価をいただきました。	子どもたちの育ちを支援する場として、一人一人の課題を客観的に分析し支援に活かすとともに、様々な生活経験が積めるよう活動プログラムを立案しています。
保護者への説明責任等	「支援内容等について丁寧な説明がありましたか」の項目で「はい」が100%になっており、利用にあたり私たちの活動についてご理解いただいていることが感じられます。ただ、苦情対応については契約時に説明していますが、25%程度「よくわからない」というご意見をいただきました。契約時の情報量が多く記憶に残りにくいことと、実際に苦情があった場合どのような対応になるのかわからないことが原因と考えられます。	契約時は様々な情報を一度に伝達するため、通所を始めてからも、毎月の通信等を活用しながら、子どもたちの支援に関わる大切な情報は再度伝える機会を作りたいと思ひます。 子ども単独または移動支援サービスによる通退所をしている子どもについては、日頃からの情報共有が十分ではない家庭もあり、今後の工夫が必要だと感じています。
非常時等の対応	避難訓練については事前の実施告知をしていないため、実施の有無がわからないというご意見がありました。	避難訓練については年3回、様々な非常事態ケースを想定して実施しています。保護者に対しても、実施時の様子などを今後は伝えていけたらと思ひます。
満足度	「事業所の支援に満足しているか」では「はい」が95%と高評価をいただきました。「お子さんは通所を楽しみにしていますか」の項目では「どちらともいえない」「よくわからない」が15%あり、本人の成長を促すための働きかけが必ずしも楽しい場面だけではないと感じることにつながっていると考えます。	子どもたちにとって様々な葛藤場面があっても、それ以上に通いたい、楽しいと思ひ気持ち勝るよう、今後も一人一人に寄り添い、保護者の方とも思ひを共有しながら、関わっていききたいと思ひます。